

共通語彙基盤

避難施設
データモデル記述 (DMD)
v1.0

平成28年9月1日

目 次

1. 本 DMD の目的	1
2. データ項目	3
3. DMD 活用の流れ	15
3. 1 新規システム構築の場合	15
3. 2 既存システムの場合	16
3. 3 既存の報告様式との関係	16
4. コード等	18
4. 1 コード、データ	18
4. 2 グローバル対応	18
5. サンプル	19

図 表 目 次

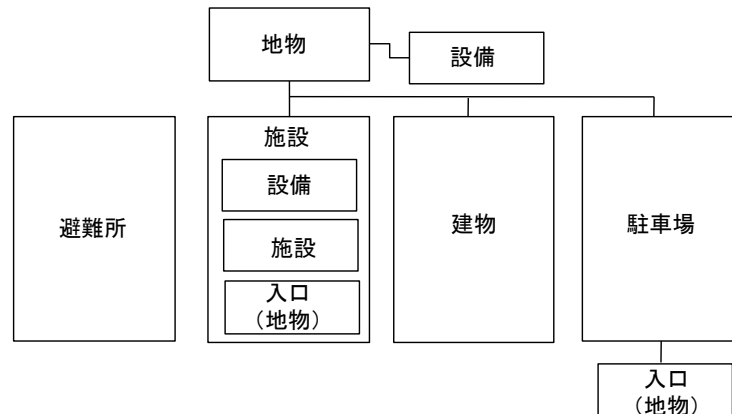
図 1 施設関連のデータ項目	1
図 2 DMD を介したデータの連係	2
図 3 主なデータ項目	4
図 4 詳細データ項目	13
図 5 英語対応、schema.org 対応（避難施設部分是对应部分無し）	14
図 6 新規システムでの導入イメージ	15
図 7 既存システムでの導入イメージ	16
図 8 サンプル	24

1. 本 DMD の目的

避難施設とは、災害等の緊急時に避難するための施設等である。避難所、避難場所などがある。

避難施設は、学校等の一般施設を災害時に活用する場合が多い。そのため、一般の施設情報を拡張して避難所情報を整理することで、住所等の基礎的情報を重複管理することなく情報を管理することが求められる。また、避難は行政区域を越えて広域で行われることも多い。更に避難所の状況を共有するための報告情報等のデータ構造の整理も求められている。

そこで、避難施設情報を交換する時の共通的な交換方法が必要となる。施設は、特定地点に設置されているものなので、地物情報のデータモデル記述を拡張して整備している。また、施設は建物情報を持つ場合もあり、その場合には建物情報も拡張できる等、様々なデータモデル記述データモデル記述の組み合わせで複合的な施設も表現することが可能である。



上記の情報から必要に応じて取捨選択して目的地を表す。
必要に応じて、更に語彙を追加することも可能

図 1 施設関連のデータ項目

既存のシステムのデータ構造を変更する必要はなく、相手先にあわせてデータ変換する時に参照すべきデータ一覧となる。

本 DMD（Data Model Description:データモデル記述）は、避難施設の情報を公開、交換、管理するために整備されたものである。実装に当たっては、共通語彙基盤の語彙セットを本 DMD と合わせて参照されたい。

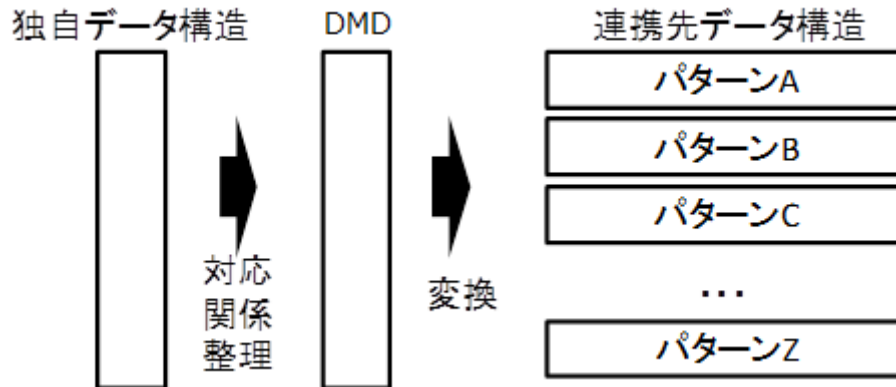


図 2 DMD を介したデータの連係

DMD 活用のメリット

- ・組織内外の多くのシステムと情報交換がしやすくなる
(調整やインタフェース改造が不要)
- ・情報項目に定義があるので、誰が見ても誤解なく情報が活用できる
- ・新規システム開発では、データ設計が標準的なデータでできる

また、本 DMD は国内の医療機関のみを対象としており、データに日本語、英語以外は使用されないものとする。

2. データ項目

データ項目と記述イメージは、以下の通りである。灰色項目はその下に記述された項目を組み合わせることで、アプリケーションで自動生成できる項目である。ただし、構造化した住所等を使用しないで、直接記入することも可能である。

データ項目名	説明	備考
名称	地物の正式名称を記載する。	
通称	地物が通称を持つ場合に記載する。	
住所表記	都道府県、市区町村、町名を連続して記載。その後、丁目、番地、号をハイフンで接続して半角で記載。「東京都千代田区霞が関 1-3-1」	連絡先詳細項目を登録することで、自動生成する。 住所のデータ構造の詳細は住所 DMD を参照
郵便番号	郵便番号を半角、ハイフンなし、連番で記載。	
要約	一覧などに載せる簡易な説明を 100 文字以内で記載する。	
説明	地物に説明がある場合には記載する。	
参照	地物を説明する情報がある場合には、その参照先 url 等を記載する。	
画像	画像がある場合には、参照先 url 等を記載する。	
連絡先	地物に関する連絡先がある場合には、その内容を記載する	連絡先詳細項目を登録することで、自動生成する。
建物 敷地面積	建物の敷地面積を記載。	
建物 延べ面積	建物の延べ面積を記載。	
建物 地上階数	建物の地上階数を記載。	
建物 構造	建物の構造を記載。	「木造」、「鉄骨造」、「鉄筋コンクリート造」、「鉄筋鉄骨コンクリート造」、「その他」
種別	避難施設の種別を記載。	「緊急避難場所」、「広域避難場所」、「指定避難所」、「福祉避難所」、「緊急避難所」、「避難場所」、「一時滞在施設」、「帰宅支援施設」、「給水所」、「救護所」、「備蓄倉庫」、「ヘリポート」、「支援拠点」、「入浴等施設」
災害種別	災害種別を記載。	「洪水」、「崖崩れ、土石流及び地滑り」、「高潮」、「地震」、「津波」、「大規模な火事」、

		「内水氾濫」、「火山現象」
対象地区	避難施設に対象地区がある場合には記載。	
管理者	避難施設の管理者を記載。	連絡先詳細項目を登録することで、自動生成する。
大型車両アクセス可否	4 トン車以上の大型車両のアクセスの可否を記載。	「可」、「現状不可」、「不可」
給食設備	給食等の設備の有無を記載。	「有」「無」
民間協定施設	民間協定施設の場合に記載。	「民間協定施設」「その他協定施設」
屋内収容可能人数	建物内への収容可能人数を記載。	
屋外収容可能人数	テント等、建物外での収容可能人数を記載。	
備考	避難施設での特記事項を記載。	
関連施設	給水所等の関連施設がある場合に記載する。	「給水所」、「救護所」、「備蓄倉庫」、「ヘリポート」、「支援拠点」、「入浴等施設」
避難所周辺状況	建物安全、人命救助、延焼、土砂崩れ、ライフライン、道路状況、建物確認について記載。	
避難所開設状況	報告日時、報告者、開設状況、開設日時、閉鎖日時、屋内避難世帯数、屋外避難世帯数、支援対象世帯数、屋内避難者数、屋外避難者数、支援対象人数を記載。	
避難所管理状況	運営会議、運営組織の有無を記載	
避難所状況	食料、飲料水、衣類、建物、衛生、医療、安全などの状況を記載。	
公衆衛生情報	高齢者、妊婦、乳児などの状況を記載。	
電源状況	電源の状況を記載	
通信状況	通信の状況を記載	

図 3 主なデータ項目

アプリケーションでは、図3のデータが利用者に見える。建物情報や避難所情報も付加可能である。

データベースでデータを管理する場合の IMI 対応は以下のとおりである。

ic:地物型						
	ic:ID					
		ic:体系				コードの体系を記載する。
			ic:名称			ID に名称がある場合に記載。
			ic:発行者			ID を発行する組織名を記載。
			ic:バージョン			ここで使用する ID のバージョンを記載。
			ic:URI			ID に URI がある場合に記載。
		ic:識別値				ID の実際の値を記載。この部分が一般には表示される。
	ic:名称					地物の正式名称を記載する。
	ic:通称					地物が通称を持つ場合に記載する。
	ic:地理識別子					緯度、経度、高度または深さ、座標参照系の順に区切り文字なしに記載。スラッシュ「/」で終わる。 地点が、面や線などを表す場合には、代表地点を記載。
	ic:住所					
		ic:種別				「代表地点」等、住所項目に解説が必要な時に使用する。
		ic:表記				都道府県、市区町村、町名を連続して記載。その後、丁目、番地、号をハイフンで接続して半角で記載。
		ic:国				国名を記載。
		ic:国コード				国名コード（2文字）を記載。
		ic:都道府県				都道府県名を記載。「東京都」「神奈川県」のように、都道府県まで記載。
		ic:都道府県コード				全国地方公共団体コード（左2桁）を記載。
		ic:市区町村				市町村名、および、東京都の場合は特別区名を記載。郡は、「〇〇郡〇〇村」と記入。北海

						道で総合振興局の記載が必要な場合には、市町村名の前に記載。	
		ic:区				全国地方公共団体コード（右4桁）を記載。	
		ic:市区町村コード				政令指定都市の場合は、区を記載。	
		ic:町名				町名、大字等、文字での住所記載部分を記載。	
		ic:丁目				半角数字	
		ic:番地補足				丁目以降の数字の前に、「東」「北」「浜」「甲」等の文字が付く場合には記載。	
		ic:番地				半角数字。	
		ic:号				半角数字。町名の後ろに数字が1つしかない場合はここに記載。	
		ic:ビル名				ビルに、「新館」等の日本語補足があるときには、「〇〇ビル新館」の要に記入	
		ic:ビル番号				半角英数字	
		ic:部屋番号				半角数字	
		ic:方書				ビル名、ビル番号、部屋番号を連続して記載。	
		ic:ID					
		ic:住所コード				住所を表すために、第三者が提供する既存のコード体系を活用する場合に使用する。	
			ic:コード種別			コードの体系を記載する。	
				ic:名称		ID に名称がある場合に記載。	
				ic:発行者		ID を発行する組織名を記載。	
				ic:バージョン		ここで使用する ID のバージョンを記載。	
				ic:URI		ID に URI がある場合に記載。	
			ic:識別値			ID の実際の値を記載。この部分が一般には表示される。	

		ic:郵便番号				郵便番号を半角、ハイフンなし、連番で記載。	
	ic:地理座標						
		ic:座標参照系				座標の参照系を記述する。	
		ic:緯度				緯度を、-90から+90で記載。 「+」「-」は必ず記載。 10進表示の場合は、小数点以下6桁まで記載。 度分秒表示の場合は、秒の小数点以下1桁まで記載。	
		ic:経度				経度を、-180から+180で記載。 「+」「-」は必ず記載。 10進表示の場合は、小数点以下6桁まで記載。 度分秒表示の場合は、秒の小数点以下1桁まで記載。	
		ic:測地高度				メートル単位の整数で記載。	
	ic:要約					一覧などに載せる簡易な説明を100文字以内で記載する。	
	ic:説明					地物に説明がある場合には記載する。	
	ic:アクセス						
		ic:種別				最寄地点からのアクセス手段。 鉄道、バス、徒歩、など	
		ic:アクセス区間				アクセス方法の各区間の一覧	
			ic:種別			最寄地点からのアクセス手段。 鉄道、バス、徒歩、など	
			ic:始点			最寄地点（駅、バス停、インターチェンジ等）	
			ic:始点備考			最寄地点までの交通手段など、最寄地点の捕捉説明となる情報。鉄道の場合、「事業会社路線名」で記載。複数路線があるときには「,」区切り	
			ic:時間			最寄地点からのアクセス時間	

		ic:地図				地図	
		ic:備考				その他の補足情報。	
	ic:参照					地物を説明する情報がある場合には、その参照先 url 等を記載。	
	ic:画像					画像がある場合には、参照先 url 等を記載。	
	ic:連絡先					地物に関する連絡先がある場合には、その内容を記載。	
		ic:種別				コールセンター等種別をしい場合に記載。	
		ic:名称				観光案内電話案内等、問い合わせ先の代表名称を記載。	
		ic:組織				連絡先を運営する組織名を記載。	
		ic:担当者役職					
		ic:担当者名					
		ic:Eメールアドレス					
		ic:住所					
		ic:送付先					
		ic:電話番号					
		ic:内線番号					
		ic:FAX番号					
		ic:携帯電話番号					
		ic:Webサイト					
		ic:ID					
		ic:対応言語					
	ic:施設型						
	ic:種別					施設の種別を記載。	
	ic:種別コード					施設の種別コードを記載。	
	ic:建物						
		ic:敷地面積				施設が持つ敷地面積を記載。	建築確認申請

							内容
		ic:主要用途				建物の主要用途を記載。	建築確認申請 内容
		ic:建築面積				建物の一階部分の面積を記載。	建築確認申請 内容
		ic:延べ面積				建物の延べ面積を記載。	建築確認申請 内容
		ic:最高の高さ				建物の最高高さをmで記載。	建築確認申請 内容
		ic:地上階数				建物の地上階数を記載。	建築確認申請 内容
		ic:地下階数				建物の地下階数を記載。	建築確認申請 内容
		ic:構造				建物の構造を記載。	建築確認申請 内容
		ic:竣工日				建物の竣工日を記載。	建築確認申請 内容
ev:避難施設							
	種別					施設の種別を記載。 緊急避難場所、広域避難場所、 指定避難所、福祉避難所、緊急 避難所、避難場所、一時滞在施 設、帰宅支援施設、給水所、救 護所、備蓄倉庫、ヘリポート、 支援拠点、入浴等施設	
	種別コード					施設の種別コードを記載。	
	dm:災害種別					「洪水」、「崖崩れ、土石流及 び地滑り」、「高潮」、「地 震」、「津波」、「大規模な火 事」、「内水氾濫」、「火山現 象」	
	対象地区					地区毎に避難施設を決めている 場合には、対象地域を記載。	
	管理担当窓口						
		ic:名称					
		ic:組織					

		ic:担当者役職					
		ic:担当者名					
		ic:Eメールアド レス					
		ic:電話番号					
		ic:内線番号					
		ic:FAX番号					
		ic:携帯電話番 号					
		ic:ID					
	ev大型車両アクセス 可否					4トン車以上の大型車両のア クセスの可否を記載。可、 現状不可、不可。	
	給食設備					給食施設の有無。	
	民間等協定施設					民間等の協定施設の場合には、 その旨を記載。	
	屋内収容可能人数					建物内への収容可能人数を記 載。	
	屋外収容可能人数					テント等、建物外での収容可能 人数を記載。	
	:備考					避難施設に関して追加情報があ るとき記載。	
	関連施設					給水所等の関連施設がある場合 に記載する。	
	避難所周辺状況						
		建物安全				以下から1つ選択記入。 「未実施」、「安全」、「要注 意」、「危険」	
		人命救助				以下から1つ選択記入。 「不要」、「必要」、「不明」	
		延焼				以下から1つ選択記入。 「なし」、「延焼中」、「大火 の危険」	
		土砂崩れ				以下から1つ選択記入。	

						「未発見」、「あり」、「警戒中」	
		ライフライン				以下から該当を選択記入。 「断水」、「停電」、「ガス停止」、「電話不通」	
		道路状況				以下から1つ選択記入。 「通行可」、「渋滞」、「片側通行」、「通行不可」	
		建物倒壊				以下から1つ選択記入。 「ほとんどなし」、「あり」、「不明」	
	避難所開設状況						
		報告日時				状況報告の実施日時	
		報告者				報告者名	
		開設状況				「未開設」、「準備中」、「開設」を記載。	
		開設日時				開設日を記載。YYYY-MM-DD	
		閉鎖日時				閉鎖日もしくは閉鎖予定日を記載。YYYY-MM-DD	
		屋内避難世帯数				建物内への収容世帯数を記載。	
		屋外避難世帯数				テント等、建物外での収容世帯を記載。	
		支援対象世帯数				自宅避難等、避難所外にいるが支援が必要な世帯数。	
		屋内避難者数				建物内への収容人数を記載。	
		屋外避難者数				テント等、建物外での収容人数を記載。	
		支援対象人数				自宅避難等、避難所外にいるが支援が必要な人数。	
		避難者増減見込み				以下から1つ選択記入。 「増加」、「減少」、「変化無し」	
	避難所管理状況						
		避難所運営会				運営会議設置の有無。	

		議					
		避難所運営組織				運営組織厚生の有無	
	避難所状況						
		総務				総合的な状況を記載。	
		情報				情報について報告事項があれば記載。	
		保健				医療状況について記載。	
		衛生				衛生状況について記載。	
		物資					
			食料			食料の状況について記載。	
			水			飲料水の状況について記載。	
			その他			物資の状況を記載。	
		施設管理				避難所の施設の充足状況を記載。	
		相談				避難所の相談事項を記載。	
		災害時要援護者対策				要援護者対策を記載。	
		防犯				防犯など安全情報を記載。	
		ボランティア				ボランティアの状況を記載。	
		自衛消防				消防の状況を記載。	
		行政担当者				参集した行政担当者名を記載。	
		施設管理者				参集した施設管理者を記載。	
	公衆衛生状況						
		状況高齢者				人数を記入。	
		妊婦				人数を記入。	
		産婦				人数を記入。	
		乳児				人数を記入。	
		幼児					
		児童				人数を記入。	
		障がい者				人数を記入。	
		難病患者				人数を記入。	
		在宅酸素療養者				人数を記入。	

		人工透析者				人数を記入。	
		アレルギー症 患者				人数を記入。	
		服薬者数				人数を記入。	
		下痢				人数を記入。	
		おう吐				人数を記入。	
		発熱				人数を記入。	
		咳				人数を記入。	
		便秘				人数を記入。	
		食欲不振				人数を記入。	
		頭痛				人数を記入。	
		不眠				人数を記入。	
		不安				人数を記入。	
	電源情報					電源の状況を記載。	
	通信状況					通信の状況を記載。	

図 4 詳細データ項目

英語名は IMI の命名規則（NDR）に従い、単語の頭文字を大文字にして英単語を接続している。

また、検索エンジンでの用語の標準化している Schema.org との関係も下表に整理する。利用した Schema.org の分類は、以下の通りである。

ic:地物型	Spot 英語名	Schema.org
ic:ID	Identification	
ic:名称	Name	Thing>name
ic:通称	AlternativeName	Thing>alternateName
ic:地理識別子	LocationIdentification	
ic:住所	Address	Thing>Place>address
ic:住所【表記】	FullAddressText	
ic:住所【郵便番号】	PostCode	
ic:地理座標	LocationGeographicCoordinate	Thing>Place>geo
ic:要約	Abstract	
ic:説明	Description	Thing>description
ic:アクセス	Access	
ic:アクセス【地図】	Map	Thing>Place>hasMap
ic:参照	Reference	
ic:画像	Picture	Thing>Place>photo
ic:連絡先	ContactInformation	
ic:連絡先【電話番号】	TelephoneNumber	Thing>Place>telephone
ic:連絡先【FAX番号】	FaxNumber	Thing>Place>faxNumber
ic:設備	ContainItem	
ic:施設型		
ic:種別	FacilityCategory	
ic:利用可能時間	ScheduleDay	Things>Place>openingHourSpecification
ic:料金	ItemValue	Things>Intangible>StructuredValue>priceSpecification
ic:収容人数	FacilityDistinctiveFeature	
施設出入口	FacilityEntrance	
ic:建物	FacilityBuilding	
ic:関連施設	RelatedFacility	Things>Place>containedIn

図 5 英語対応、schema.org 対応（避難施設部分は対応部分無し）

3. DMD 活用の流れ

3. 1 新規システム構築の場合

データ設計において、本 DMD の活用を検討する。本 DMD に対応することで、インタフェースのカスタマイズを最小限に抑えることができる。

データベース内のデータを詳細項目で記録して、入出力においては利用者に合わせた形で構築する。こうすることで、高い相互運用性と使いやすいインタフェースを両立させること。

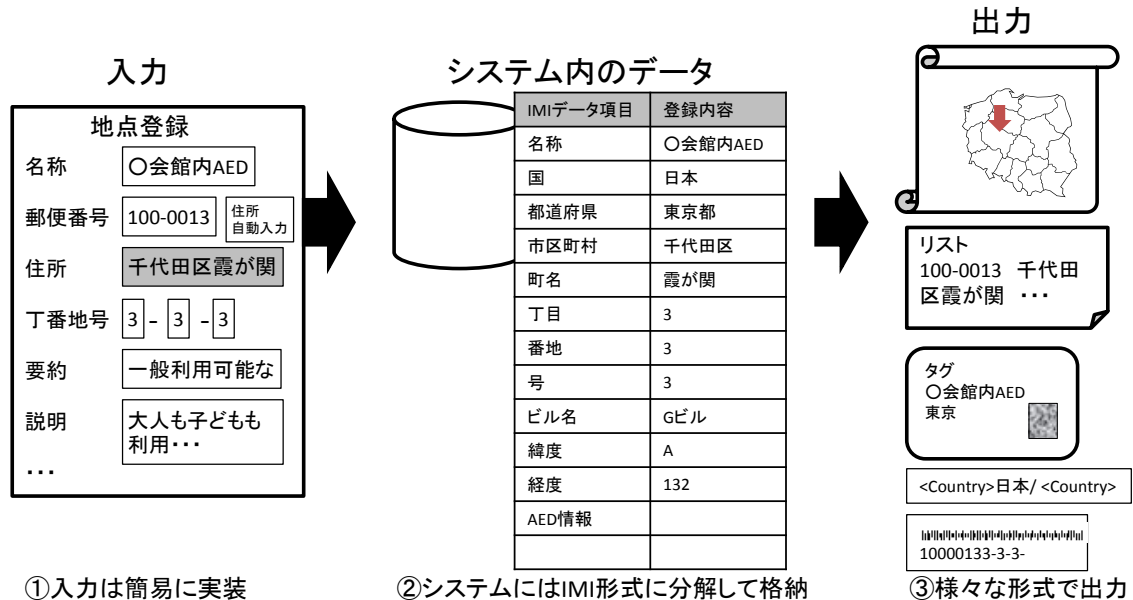


図 6 新規システムでの導入イメージ

(1) 手順1 データ洗い出し

新システムに必要なデータ項目の洗い出しを行う。また、他システムで持っており、インポート可能なデータを洗い出す。

(2) データ確認とサブセット作成

IMI のデータ項目を見て、過不足を検討する。そして、IMI のデータのうち使用する項目のサブセットを作成する。他システムでインポート可能なデータがある場合、そのデータの対応関係を整理する。

(3) データ実装方式の検討

画面やデータベースでのデータ実装方式を検討する。郵便番号や町字コードから住所を自動入力するなどの工夫を行う。また、他システムでインポート可能なデータがある場合、そのデータの変換方法等を整理する。

3. 2 既存システムの場合

他システムとの情報交換や情報公開のためにデータのインタフェース設計（API を含む）が必要な時に、本 DMD の活用を検討する。本 DMD を活用することで、2 回目以降の変換作業の負担を大幅に減らすことができる。

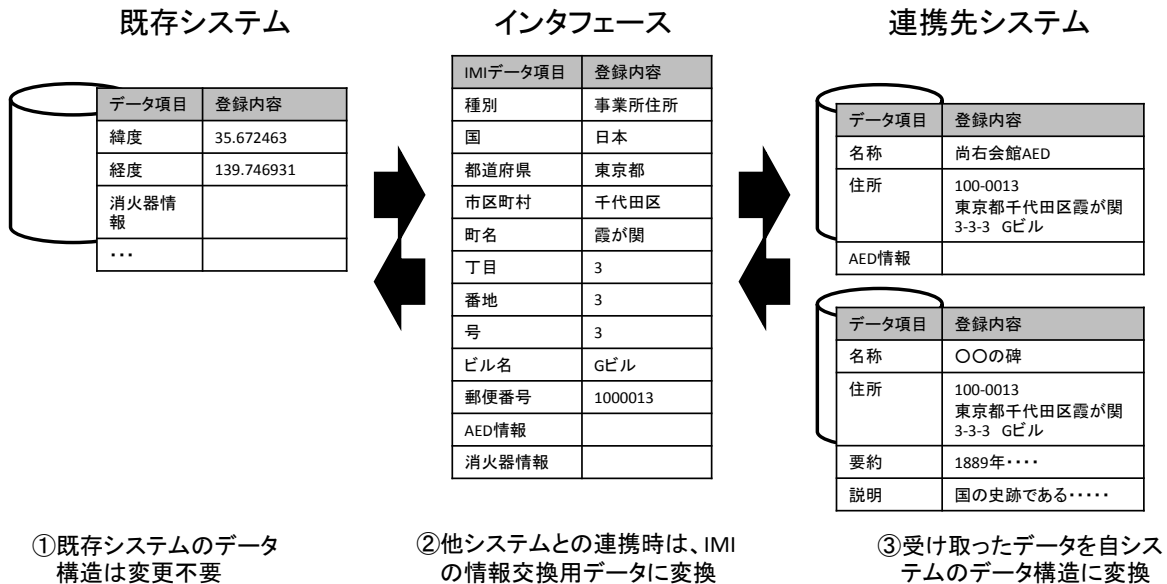


図 7 既存システムでの導入イメージ

（消火器情報、AED 情報、観光情報をマッシュアップ）

（1）データ対応表の作成

自組織内で地物に関するデータベースを持っている時には、IMI のデータ項目に対して対応表を作成する。

（2）情報交換用データセットに変換

自組織の情報と IMI の対応表、連携先のデータと IMI の対応表を見て、情報交換方式を検討する。双方ともに情報交換用データセットに変換して送受信を行えるように準備する。

（3）IMI 形式データの受信と自組織のデータ形式への変換

データ連携先には、IMI 形式でのデータ送信を依頼する。その上で、IMI 形式で受信したデータを、自組織のデータ形式に変換する。

3. 3 既存の報告様式との関係

各自治体では、防災計画の中で避難所状況報告書を用意しているが、現在のデータ項目で、ほぼ自動的に避難所報告を行うことができる。（前日比等は計算する必要がある。）

様式 6 - 1

避難所 ー 災害対策本部

避難所状況報告書（初動期用）

災害対策本部：FAX（）TEL（）

避難所名

開設日時	月 日 時 分	避難種別	勧告・指示・自主避難		閉鎖日時	月 日 時 分					
第1報（参集後すぐ）			第2報（3時間後）			第3報（6時間後・閉鎖）					
送信者名				送信者名				送信者名			
災害対策本部受信者名				災害対策本部受信者名				災害対策本部受信者名			
報告日時		月 日 時 分		報告日時		月 日 時 分		報告日時		月 日 時 分	
受信手段		FAX・電話・伝令・その他（）		受信手段		FAX・電話・伝令・その他（）		受信手段		FAX・電話・伝令・その他（）	
受信先番号				受信先番号				受信先番号			
人数		約 人		人数		約 人		人数		約 人	
世帯		約 世帯		世帯		約 世帯		世帯		約 世帯	
周辺状況	建物安全確認	未実施・安全・要注意・危険		周辺状況	建物安全確認	未実施・安全・要注意・危険		周辺状況	建物安全確認	未実施・安全・要注意・危険	
	人命救助	不要・必要（約 人）・不明			人命救助	不要・必要（約 人）・不明			人命救助	不要・必要（約 人）・不明	
	延焼	なし・延焼中（約 件）・大火の危険			延焼	なし・延焼中（約 件）・大火の危険			延焼	なし・延焼中（約 件）・大火の危険	
	土砂崩れ	未発見・あり・警戒中			土砂崩れ	未発見・あり・警戒中			土砂崩れ	未発見・あり・警戒中	
	ライフライン	断水・停電・ガス停止・電話不通			ライフライン	断水・停電・ガス停止・電話不通			ライフライン	断水・停電・ガス停止・電話不通	
	道路状況	通行可・渋滞・片側通行・通行不可			道路状況	通行可・渋滞・片側通行・通行不可			道路状況	通行可・渋滞・片側通行・通行不可	
建物倒壊	ほとんどなし・あり（約 件）・不明		建物倒壊	ほとんどなし・あり（約 件）・不明		建物倒壊	ほとんどなし・あり（約 件）・不明				
※ 第1報においては、わかるものだけでよい。				避難者数増減見込み 増加・減少・変化なし				避難者数増減見込み 増加・減少・変化なし			
緊急を要する事項（具体的に箇条書き）				緊急を要する事項（具体的に箇条書き）				緊急を要する事項（具体的に箇条書き）			
建物の安全確認で危険と判定された時の対応（具体的に箇条書き）				建物の安全確認で危険と判定された時の対応（具体的に箇条書き）				建物の安全確認で危険と判定された時の対応（具体的に箇条書き）			
参集した行政担当者				参集した行政担当者				参集した行政担当者			
参集した施設管理者				参集した施設管理者				参集した施設管理者			

様式 6 - 2

情報班 ー 行政担当者 ー 災害対策本部

避難所状況報告書【第 報】避難所名

送信者名		災害対策本部受信者名			
報告日時		月 日 時 分		避難所FAX・TEL	
世帯数		現在数(A)		前日数(B)	
内	避難者	(※) 世帯		(※) 世帯	
	被災者	(※) 世帯		(※) 世帯	
	合計	(※) 世帯		(※) 世帯	
人数		現在数(A)		前日数(B)	
内	避難者	(※) 人		(※) 人	
	被災者	(※) 人		(※) 人	
	合計	(※) 人		(※) 人	
運営状況	避難所運営会議	編成済み・未編成		地域状況	土砂崩れ
	避難組織	編成済み・未編成			ライフライン
					断水・停電・ガス停止・電話不通
避難所管理責任者名				道路状況	
連絡先 (TEL, FAX)				通行可・渋滞・片側通行・通行不可	
		対応状況		今後必要となる事項	
連絡	総務班				
	情報班				
	保健衛生班				
	物資班				
	相談班				
	災害時要援護者対策班				
防犯	防犯班				
	自衛消防班				
	行政担当者				
施設管理者					
対応すべき、予見される事項（水、食料の過不足／物資の過不足／風邪などの発生状況／避難所の生活環境／避難者の雰囲気 など）					

※（ ）には屋外避難者を記入のこと

連絡事項は自由記述になっているが、概況を集計するために簡易指標化することも考えられる。

4. コード等

4. 1 コード、データ

避難施設の表記には以下のコードが活用できる。

避難所（コードではなく一覧）

名称 : 避難施設

コード ID :

発行者 : 国土交通省 国土数値情報

発行者 ID :

バージョン :

URI（URL） : <http://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-P20.html>

4. 2 グローバル対応

海外からの訪問者や滞在者が増えていることから、多言語での対応も求められている。観光庁では「観光立国実現に向けた多言語対応の改善・強化のためのガイドライン」において、英語、中国語（簡体字）、韓国語に対応した対訳後一覧を提供している。語彙の活用において、本対訳を活用されたい。

5. サンプル

本 DMD 整備において、文字コレクションは以下の方針で制約を設定する。

対象: 組織等の名称・住所について、漢字を含みうる箇所

方針: 漢字については JIS 第 1 水準から第 4 水準に限定させるため、以下の文字コレクションを制約として加える。

組番号 285(BASIC JAPANESE):JIS 第 1 水準、第 2 水準

組番号 371(JIS2004 IDEOGRAPHICS EXTENSION): JIS 第 3 水準、第 4 水準

対象: 組織等の名称・住所、氏名の表記について、カタカナを含む箇所

方針: 以下の文字コレクションを制約として加える。

組番号 51(KATAKANA): カタカナ

対象: 組織等の名称・住所、氏名の表記について、ローマ字を含む箇所

方針: 以下の 2 つの文字コレクションを制約として加える。

組番号 1(BASIC LATIN): ラテンアルファベット

組番号 2(LATIN-1 SUPPLEMENT): “ø” 等の長音を含むラテンアルファベット

サンプル 1

データ項目名	説明	サンプル	利用可能な文字コレクション
名称	地点の正式名称を記載する。	〇〇小学校	285, 371
通称	地点が通称を持つ場合に記載する。	〇〇小	制限無し
住所表記	都道府県、市区町村、町名を連続して記載。その後、丁目、番地、号をハイフンで接続して半角で記載。	神奈川県横浜市金沢区〇〇1-21-1	285, 371
連絡先	地点に関する連絡先がある場合には、その内容を記載する	045-***-****	制限無し
建物 敷地面積	建物の敷地面積を記載。	10000	制限無し
建物 延べ面積	建物の延べ面積を記載。	10000	制限無し
建物 地上階数	建物の地上階数を記載。	4	制限無し
建物 構造	建物の構造を記載。	RC	制限無し
種別	避難施設の種別を記載。	「指定避難所」	制限無し
災害種別	災害種別を記載。	「崖崩れ、土石流及び地滑り」、「地震」、「大規模な火事」	制限無し

対象地区	避難施設に対象地区がある場合には記載。	★★町、△△町 1-3 丁目	制限無し
管理者	避難施設の管理者を記載。	045-***-****	制限無し
大型車両アクセス可否	4 トン車以上の大型車両のアクセスの可否を記載。	「現状不可」	制限無し
給食設備	給食等の設備の有無を記載。	「有」	制限無し
民間協定施設	民間協定施設の場合に記載。		制限無し
屋内収容可能人数	建物内への収容可能人数を記載。	250	制限無し
屋外収容可能人数	テント等、建物外での収容可能人数を記載。	100	制限無し
備考	避難施設での特記事項を記載。		制限無し
関連施設	給水所等の関連施設がある場合に記載する。	「給水所」、「救護所」	制限無し
dm:避難所 周辺状況_ 建物安全	以下から1つ選択記入。 「未実施」、「安全」、「要注意」、「危険」	安全	制限無し
dm:避難所 周辺状況_ 人命救助	以下から1つ選択記入。 「不要」、「必要」、「不明」	不要	制限無し
dm:避難所 周辺状況_ 延焼	以下から1つ選択記入。 「なし」、「延焼中」、「大火の危険」	なし	制限無し
dm:避難所 周辺状況_ 土砂崩れ	以下から1つ選択記入。 「未発見」、「あり」、「警戒中」	未発見	制限無し
dm:避難所 周辺状況_ ライフライン	以下から該当を選択記入。 「断水」、「停電」、「ガス停止」、「電話不通」	断水、停電、ガス停止	制限無し
dm:避難所 周辺状況_ 道路状況	以下から1つ選択記入。 「通行可」、「渋滞」、「片側通行」、「通行不可」	通行不可	制限無し
dm:避難所 周辺状況_ 建物倒壊	以下から1つ選択記入。 「ほとんどなし」、「あり」、「不明」	あり	制限無し
dm:避難所 開設状況_ 報告日時	状況報告の実施日時	20XX-09-21	制限無し
dm:避難所	報告者名	岡本 明	制限無し

開設状況_ 報告者			
dm:避難所 開設状況_ 開設状況	「未開設」、「準備中」、「開設」を記載。	開設済	制限無し
dm:避難所 開設状況_ 開設日時	開設日を記載。YYYY-MM-DD	20XX-09-20	制限無し
dm:避難所 開設状況_ 閉鎖日時	閉鎖日もしくは閉鎖予定日を記載。YYYY-MM-DD	20XX-12-20	制限無し
dm:避難所 開設状況_ 屋内避難世帯数	建物内への収容世帯数を記載。	87	制限無し
dm:避難所 開設状況_ 屋外避難世帯数	テント等、建物外での収容世帯を記載。	50	制限無し
dm:避難所 開設状況_ 支援対象世帯数	自宅避難等、避難所外にいるが支援が必要な世帯数。	100	制限無し
dm:避難所 開設状況_ 屋内避難者数	建物内への収容人数を記載。	180	制限無し
dm:避難所 開設状況_ 屋外避難者数	テント等、建物外での収容人数を記載。	100	制限無し
dm:避難所 開設状況_ 支援対象人数	自宅避難等、避難所外にいるが支援が必要な人数。	200	制限無し
dm:避難所 開設状況_ 避難者増減 見込み	以下から1つ選択記入。 「増加」、「減少」、「変化無し」	増加	制限無し
dm:避難所 管理状況_ 避難所運営 会議	運営会議設置の有無。	有	制限無し
dm:避難所	運営組織の有無	有	制限無し

管理状況_避難所運営組織			
dm:避難所状況_総務	総合的な状況を記載。	行政職員が不足している	制限無し
dm:避難所状況_情報	情報について報告事項があれば記載。	周辺の状況把握がまだできていない	制限無し
dm:避難所状況_保健衛生（保健）	医療状況について記載。	救護所に人が足りない	制限無し
dm:避難所状況_保健衛生（衛生）	衛生状況について記載。	トイレがあふれている	制限無し
dm:避難所状況_物資（食料）	食料の状況について記載。	食料が必要量の半分しかない	制限無し
dm:避難所状況_物資（水）	飲料水の状況について記載。	飲料水はあるが、生活水が不足	制限無し
dm:避難所状況_物資（その他）	物資の状況を記載。	着替えがほしい	制限無し
dm:避難所状況_施設管理	避難所の施設の充足状況を記載。	休息をとる空間は十分ある	制限無し
dm:避難所状況_相談	避難所の相談事項を記載。	家族捜索の依頼が多数	制限無し
dm:避難所状況_災害時要援護者対策	要援護者対策を記載。	透析が必要な患者がいる	制限無し
dm:避難所状況_防犯	防犯など安全情報を記載。	地域で空き巣があるらしい	制限無し
dm:避難所状況_ボランティア	ボランティアの状況を記載。	介護のボランティアがほしい	制限無し
dm:避難所状況_自衛消防	消防の状況を記載。	問題なし	制限無し
dm:避難所状況_行政担当者	参集した行政担当者名を記載。	三橋 博	制限無し

dm:避難所 状況_施設 管理者	参集した施設管理者を記載。	田中 仁	制限無し
dm:公衆衛生_ 高齢者	人数を記入。	25	制限無し
dm:公衆衛生_ 妊婦	人数を記入。	2	制限無し
dm:公衆衛生_ 産婦	人数を記入。	3	制限無し
dm:公衆衛生_ 乳児	人数を記入。	-	制限無し
dm:公衆衛生_ 幼児・児童	人数を記入。	-	制限無し
dm:公衆衛生_ 障がい者	人数を記入。	-	制限無し
dm:公衆衛生_ 難病患者	人数を記入。	-	制限無し
dm:公衆衛生_ 在宅酸素療養 者	人数を記入。	-	制限無し
dm:公衆衛生_ 人工透析者	人数を記入。	-	制限無し
dm:公衆衛生_ アレルギー症 患者	人数を記入。	-	制限無し
dm:公衆衛生_ 服薬者数	人数を記入。	-	制限無し
dm:公衆衛生_ 下痢	人数を記入。	-	制限無し
dm:公衆衛生_ おう吐	人数を記入。	-	制限無し
dm:公衆衛生_ 発熱	人数を記入。	-	制限無し
dm:公衆衛生_ 咳	人数を記入。	-	制限無し
dm:公衆衛生_ 便秘	人数を記入。	-	制限無し
dm:公衆衛生_ 食欲不振	人数を記入。	-	制限無し
dm:公衆衛生_ 頭痛	人数を記入。	-	制限無し
dm:公衆衛生_ 不眠	人数を記入。	-	制限無し
dm:公衆衛生_ 不安	人数を記入。	-	制限無し
dm:避難施設_ 電源情報	電源の状況を記載。	非常電源有。明日ま で燃料有	制限無し
dm:避難施設_ 通信状況	通信の状況を記載。	不安定である	制限無し

	人数を記入。		制限無し
	人数を記入。		制限無し
	電源の状況を記載。		制限無し
	通信の状況を記載。		制限無し

図 8 サンプル